

問 8 He (A) his umbrella (B) in the door by accident when he boarded the rush hour train. 15

get 12 ←

力引 = 1st

get A + v-ed
1st

① A : got B : caught

③ A : made B : caught

② A : got B : to catch

④ A : made B : to catch

get - A - v-ed → make - A - v-ed + umbrella

A 3つの使役

6-5-2 使役動詞 make / let / have + O + 原形不定詞

My grades are getting worse. Mr. Tanaka often makes me study after school.

176

私の成績は悪くなってきてる。田中先生はしばしば放課後私に勉強をさせる。

解説 他の人に、ものを強制したり依頼したりする動詞 (make, let, have) を使役動詞という。〈使役動詞 + O + 原形不定詞〉の形で用いられる。「O に～させる」が基本的な意味である。

【A】 make : 「(強いて) ～させる」 (例文 176)

► The salesman made her sign the contract.

(販売員は彼女に無理やり契約書にサインさせた。)

► The salesman forced (/ compelled) her to sign the contract.

【B】 let : 「(相手の望むように) ～させてやる」

► My father won't let me use his car. (父は車を私に使わせてくれない。)

► My father won't allow me to use his car.

► Let me have a bite. (一口食べさせてください。)

【C】 have : 「(make ほどの強制力はなく) ～させる, ～してもらう」どちらの意味かは文脈による。

► I'll have Susie call you when she is back.

(スージーが戻ってきたら電話させましょう。)

► My mother has me do the dishes when she is tired.

(お母さんは疲れている時は私に皿洗いをさせる。)

注意 〈see / hear / make + O + 原形不定詞〉の受動態は、原形不定詞が to-V になるので注意しよう。 (例文 p.160 5-9, 1, 5-9-2)

6 不定詞

B 起大切! 被害の意を含む使役

8-3-4 〈使役動詞 have / get + O + 過去分詞〉

I want to have this sofa delivered by Friday.

このソファを金曜日までに配達してもらいたい。

239

She had her purse snatched in the street yesterday.

240

昨日、彼女は通りでハンドバッグをひったくられた。

解説 〈have / get + O + 過去分詞〉には、〈使役〉と〈被害〉の2つの意味がある。

【A】 「O を～してもらう, ～させる」と〈使役〉の意味を表す。

► What did you do with that broken TV? — I had it collected yesterday. (あの壊れたテレビはどうしたの。一昨日回収してもらったよ。)

► I have to get this job done by tomorrow. (明日までにこの仕事を仕上げなければならない。)

【B】 「O を～される」と〈被害〉を表す。

► I had my leg stung by a jellyfish. (僕はクラゲに足を刺された。)

► He got his fingers caught in the door. (彼はドアに指をはざられた。)

8

分詞

違いを知ろう

〈have + O + 原形〉 それとも 〈have + O + 過去分詞〉 ?

28

次の () 内には clean と cleaned のどちらが入るのだろうか。

(a) I have my room () by a maid.

(b) I have a maid () my room.

さらに進んで

俊後動詞 make を使った〈make oneself understood / heard〉という言い方もある。慣用的な表現として覚えておこう。

▶ I couldn't make myself understood in English in Paris.
(パリでは英語が通じなかった。)

make oneself understood in English は「自分を英語で理解されるようにする→英語が通じる」の意味となる。understood の代わりに過去分詞 heard がくれば、「自分の声を聞こえるようにする→自分の声が通る」の意味になる。

▶ Bill couldn't make himself heard because of the noise.
(騒音のためにビルの声が通らなかった。)

違いを知ろう

29 〈被害〉を表すのに、have, get のいずれを用いても同じなの?

(a) The boy had his leg blown off in the explosion of a landmine.
(少年は地雷の爆発で足を吹き飛ばされた。)

(b) I got my shirt caught on a nail.
(私はうっかりシャツをクギに引っかけてしまった。)

どちらも〈被害〉を受けた時に使われる表現であるが、微妙な違いがある。(a) の〈have+O+過去分詞〉のもとの意味は「O が～された状態を have する (持つ)」である。したがって (a) は「足が吹き飛ばされた状態を持つ→足を吹き飛ばされた」の意味となる。犯罪、災害など、主語以外のものに責任がある場合に用いられることが多い。

▶ I had my pocket picked in the jam-packed train.
(私は満員電車で財布をすられた。)

それに対して、get は「ある状態を get する (手に入れる) → ある状態に (変化) させる」がもとの意味である。(b) は「(不注意などで) シャツがクギに引っかかった状態にさせる (状態を引き起こす) → シャツをクギに引っかけてしまった」の意味となる。このように get の場合には、主語の不注意などで引き起こされた事故や災難など、主語にその責任がある場合に用いられることが多い。

▶ Be careful not to get yourself burned. (やけどしないように注意しなさい。)

もっと深く知りたい!

19 The couple had their photo taken. は〈使役〉、〈被害〉のどちらの意味?

〈have+O+過去分詞〉は、p.234 違いを知ろう29でも述べてあるように、もともとは「O が～される状態を持つ」という意味である。〈使役〉と〈被害〉の2つの意味に分類しているが、厳密に分かれているわけではなく2つの意味をあわせ持つものもある。〈使役〉、〈被害〉どちらの意味で使われているかは文脈で判断するしかない。

▶ The couple had their photo taken by a passerby.
(カップルは通りがかりの人に写真を撮ってもらった。)

▶ The couple had their photo taken by paparazzi.
(カップルはパパラッチに写真を撮られてしまった。)

次の例もどちらにでも解釈できる。

▶ We had our fence painted.
(フェンスにペンキを塗ってもらった。/ フェンスにペンキを塗られた。)

▶ I had a bad tooth pulled.
(虫歯を抜いてもらった。/ 虫歯を抜かれた。)

8

分 詞

8-4 分詞を含む慣用表現

次のような分詞を含む基本的な表現を覚えておこう。

8-4 分詞を含む慣用表現

I went skiing in Canada this winter.
この冬、私はカナダにスキーに行きました。

My sister is busy preparing for the school festival.
私の姉は文化祭の準備で忙しい。

解説 [A] 〈go V-ing〉: 「～しに行く」(例文 241)
▶ We went swimming in the river. (私たちは川へ泳ぎに行った。)

[B] 〈be busy V-ing〉: 「～で忙しい」(例文 242)
▶ Tom is busy studying for the exams now. (トムは今、試験勉強で忙しい。)

他にも次のような表現がある。

[C] 〈spend+O+V-ing〉: 「～して O を過ごす」
▶ He spent his free time reading. (彼は読書をして余暇を過ごした。)
waste time (時間を無駄にする), kill time (時間をつぶす) も同じ形で用いられる。

== 「人に何かをしてもらう、させる」のまとめ ==

■主語 + 動詞 + 目的語 + 不定詞

- She **told** him **to go** there.

彼女は、彼にそこへ行くように言いました。

- I **asked** him **to help** me.

私は、彼に私を手伝うように頼みました。

- I **want** you **to read** this book.

私は、あなたにこの本を読んで欲しい。

- He **advised** me **to go** home.

彼は、私に家に帰るように忠告した。

- My mother **allowed** me **to go** out.

母は、私が外出するのを許してくれた。

■使役動詞

①make/have/let 型は原形不定詞を使う

- My mother **made** me **eat** vegetables. #状態に変化させる

母は私に野菜を食べさせた。

- I'll **have** him **text** you. #状態を持つ

私は彼にテキストメッセージを送ってもらう。

- I will **let** them **enter** my room. #状態を許す

私は彼らが部屋に入るようになります。

②get 型は To 不定詞を使う

- I couldn't **get** the computer **to work**. #状態を得る

私はそのパソコンを動かすことができなかった。

③get + 目的語 + 形容詞 の特殊表現

[目的語]を[形容詞]の状態にさせる／で手に入る

- I **get** this camera **cheap**.

私は、このカメラを安く手に入る。

- I **get** dinner **ready**.

私は、ディナーを準備の状態にさせる。⇒ディナーを準備する

④使役動詞 Help の使い方 =原形不定詞と To 不定詞の両方OK

- I will **help** you **clean** up your room.

私はあなたの部屋の掃除を手伝いましょう。

- I will **help** you **to clean** up your room.

私はあなたの部屋の掃除を手伝いましょう。

■使役動詞と知覚動詞－上級編

see(見る)や hear(聞く)のような感覚を表す動詞は、知覚動詞と呼ばれる。

これらは使役動詞のように、対象となる名詞の後に動詞の原形を使うことで

「するのを見る/聞く」といった意味で使われる。

- I **heard** a woman **shout**.

私は女性が叫ぶのを聞いた。

- She **felt** somebody **touch** her foot.

彼女は誰かが足を触るのを感じた。

■使役動詞の受動態－上級編

- I **was made** **to drink** water.

私は水を飲まされた。

■使役動詞と現在分詞・過去分詞－上級編

- I **had** the audience **laughing**. #「動作の最中」を表す

現在分詞：私は聴衆を笑わせた。

- I **have** my homework **finished**. #「動作の完了」を表す
- I **get** my homework **finished**. #「動作の完了」を表す

過去分詞: 私は宿題を終わらせました。

- I will **have** my student **email** you soon. #「動作がまだ行われていない」を表す

原形: 私は学生からあなたにすぐに E メールを送らせます。

<補足>

- I **have** my foot **stepped** on by someone. #誰かに何かをされて被害を被る
- I **get** my foot **stepped** on by someone. #誰かに何かをされて被害を被る

過去分詞: 私は足を踏まれた。

2. おもに日本語の場合だが、have to の進行形の例もまれにある。(p. 260 (参考) 参照)

(4) 「have + 目的語 + 動詞の原形(過去分詞)」

表す意味は次の3つである。

(a) 「～させる」 (b) 「～される」 (c) 「～してもらう」

① I had him mend my watch.

② I had my watch mended.

③ He had his watch stolen.

④ I would like to have him come.

私は彼に時計を直させた。

私は時計を直させた。

彼は時計を盗まれた。

私は彼に来てもらいたい。

補足 上記の3つの訳し方のうち、どの場合にはどの訳を用いるかについては、規則はない。前後の文を訳した上で、日本語で考えて、いちばん適する訳し方を選んで用いればよい。したがって、たとえば②は、前後関係により、「直してもらった」でもよい。ただ、④の訳し方は、主語にとって好ましくない行為の場合(③参照)に用いられる。

《注意》 1. 上記の構文と完了形との形式上の相違に注意。完了形では、目的語が中間におかれることはない。ただし、(5)を参照。

2. 「～される」の場合については、p. 281, § 12も参照せよ。

研究 1. 目的語の次に、動詞の原形(不定詞)を用いるのか、過去分詞を用いるのかは、その目的語と不定詞または過去分詞の表す動作との関係によってきまる。①のように、目的語(彼)が、「直す」という動作を行うという関係がある場合は、動詞の原形を用いる。これに対して、②のように、目的語(時計)が、「直す」という動作を受ける(修理する人によって直される[受身の関係])場合には、過去分詞を用いるのである。同様に、③では「時計が盗まれる」のだから過去分詞である。④では、「彼が来る」[能動]のだから、こここの come は不定詞であって過去分詞ではない。

2. 「～させる」「～してもらう」の意味では、「get + 目的語 + to + 動詞の原形」も用いる。動詞に to がつく点と、「～される」とはならない点に注意。しかし、「to + 原形」でなく過去分詞であれば「～される」のときもある。

I got him to paint the house.

私は彼に(いって)家にペンキを塗らせた。

I got the house painted.

私は家にペンキを塗らせた。

3. この have が完了形になっている例はしばしばある。しかし、進行形、受動態は作らない。ただし、get は、受動態を作ることもたまにはある。

(参考) 1. 「～させる」「～してもらう」の意味で have を用いる構文が見られるの

研究 1. 「get + 過去分詞」はつねに動作の意味を表し、be を用いた場合のように、状態を表すことはない。また、これは口語的な表現である。訳し方は、ふつうの受動態と同じでよい。

2. 「become + 過去分詞」の場合は、become 本来の「～になる」という意味は失われきってはいない。このときの過去分詞はむしろ形容詞に近づいたものと考えるほうが無難であろう。その他「grow, remain, stand, etc. + 過去分詞」の場合も同様である。

参考 「be + 過去分詞」と「get, become + 過去分詞」との相違点：上記以外に、両者の間には、だいたいにおいて、次のような違いが認められる。

① 後者の構文には、by ～がつくことはないといってよい。「become + 過去分詞」はことに、「だれかによって（～される）」という意味が少しでも予想されるような内容の文ではまず用いない。つまり、invite, pay など、当然特定の「招く人」「支払う人」を予想させる動詞は、become invited [paid] などのようにはいわない。

② 「get + 過去分詞」は、その文の主語にとって喜ばしい、または悲しむべきことと見られるものをきわ立たせ、聞き手が驚くだろうといった期待を含んで用いられるが、be にはそれはない。

③ 前後の関係、または、動詞の表す行為の性質から、不可避と見られるようなできごとをいうときは、be を用い get は用いられない。

§12 受動態によらない受動表現

(1) 「have + 目的語 + 過去分詞」が「～される」を意味する場合

① He **had** **his watch stolen**. | 彼は時計を盗まれた。

② They **had** **their ships destroyed**. | 彼らは船を破壊された。

《注意》 1. この構文は「～される」以外の意味に用いられることも多い。それらについては、p.319を参照せよ。

2. **受動態との相違点**：この構文とすでに述べた受動態の相違点は、受動態では主語そのものがある動作を直接受けるのに対し、この構文では主語は間接的に被害や影響を受けるだけで、動作を受けるものは、have の目的語である点が特徴である。①でいえば、彼という人間そのものが品物を盗むように盗み去られたわけではなく、彼は被害者であるだけで、盗まれたのは時計なのである。したがって、He was stolen (his watch). などとはいえない。《His watch was stolen.》はいえるが、例文のように、彼が被害を受けたという意味は、表せない》なお、steal が「盗まれた物」を目的語にするのに対し、rob は「盗まれた人」を目的語にするから、この受動態ならば、He was robbed of his